

第2回狛江市下水道総合計画策定検討委員会 会議録

- 1 日時 令和7年6月19日(木) 午後6時～7時45分
- 2 場所 狛江市役所5階 503会議室
- 3 出席者 委員 長岡 裕、坂邊 淳也、五十嵐 秀司、都築 完、谷田部 英雄、
一瀬 隆文
事務局 岩崎 俊勝、渡邊 耕介、音成 美貴、大橋 京侑

4 議題

- (1) 新下水道総合計画の策定に向けて
- ・概要
 - ・スケジュール
- (2) 狛江市下水道事業の現状と課題について
- (3) 基本理念と基本方針について
- (4) 施策と具体的な取組みについて
- (5) その他
- ・次回以降の会議について

5 配布資料

- 資料1 第2回狛江市下水道総合計画策定検討委員会資料
- 資料2 狛江市下水道総合計画策定検討業務委託その1報告書(概要版)

6 議事概要

- (1) 新下水道総合計画の策定に向けて

【事務局】

—資料1のとおり、下水道総合計画の位置付け、今後のスケジュールについて説明—

【委員】スケジュール内に環境保全審議会の予定が載っているが、策定検討委員会との関係はどのようなものか。

【事務局】環境保全審議会は狛江市環境基本計画に関連する審議会として常設されている。新下水道総合計画について報告を行う予定である。

(2) 狛江市下水道事業の現状と課題について

—資料1、2のとおり、狛江市下水道事業の現状と課題について説明—

【委員】資料1の6ページのグラフについて、令和5年度に有収水量が大きく減っているように見える。要因は何か把握しているか。

【事務局】コロナ禍のいわゆる巣ごもりによって、令和2年頃から一度有収水量が増加している。節水機器の普及もあり、有収水量は減少の傾向にあるが、細かい原因については究明できていない。周辺自治体の有収水量の傾向も確認し、将来の収支予測を立てる際の参考としたい。

【委員】維持管理費の増加の要因と今後の見通しはいかがか。

【事務局】人件費や光熱費といった物価高騰による要因が大きい。

【委員】物価高騰以外に要因もあるのか。

【事務局】管路の耐用年数である50年を越える管が増加することから、今後の維持管理に必要な費用は増えていくと見込んでいる。

【委員】ウォーターPPPを実施する予定はあるのか。

【事務局】今のところ明確な予定はないものの、補助金の交付対象となる要件の一つでもあるので、検討していかなくてはならないと認識している。

【委員】資料1の6ページのグラフを見ると、委託料が大きく増え、その後やや減少に転じているように見えるが、要因は何か。

【事務局】詳細を確認する。

【委員】耐震性能が確認できていない管路が多くあるようだが、今後はどのように対応していくのか。

【事務局】耐震化計画を策定しており、避難所とつながる重要な路線などを考慮し、計画的に耐震化を行っていく予定である。

【委員】資料1の12ページで、どのぐらい耐震化が進んだかが示されているが、経年変化が分かるようにグラフ化してもらえると見やすいと思う。

【委員】埼玉県八潮市で起きたような事故が狛江市で起こった場合にはどのように対応することになるのか。

【事務局】同様な事故が起こらないようにすることが前提ではあるが、万が一発生してしまった場合にどのような予算規模になるのか等は正直分からない。八潮市と同様に下水の流れを変える等、非常に難しい対応になると思われる。

【委員】狛江市内に大口径の管はどのぐらいあるのか。

【事務局】管径2m以上の大口径は約8kmだが、これには開渠も含まれている。暗渠は約6.8kmである。今年度中に点検予定である。

【委員】点検の実施状況について、示すようにしてほしい。

【委員】新下水道総合計画で整備目標を示すと思うが、今回の委員会で数値を示している資料はあるか。

【事務局】指標などについては次回の委員会で提示予定である。

【委員】現状と課題において、狛江市特有なものは何か。

【事務局】狛江市は多摩川と野川に挟まれた平坦な地形であり、浸水が起きやすいといえる。現在は特に浸水対策に重点を置いており、かかる費用も多くなっているため、地震対策などになかなか手をかけられていない状況である。地震対策も重要なものであり、進めていかなければいけないものだと思っている。この新下水道総合計画の中でこれから必要となる費用や人員などを検討して、将来につなげていきたい。

【委員】使用料や経費回収率について比較分析を行っているが、これとは別に耐震化率や老朽化率などのハード面についても示してもらえると良い。

【委員】耐震化については、路線を決めて順番に調査を行っているということか。

【委員】他の自治体ではまず全体を調査して耐震化率を出しているところが多いが、狛江市の場合はエリアごとに調査を行っており、やり方が違うために耐震化率の見え方が違うということがある。そういったことを考慮して、表記を考えても良いのではないか。

【事務局】表記の仕方を検討したい。

(3) 基本理念と基本方針について

—資料1のとおり、基本理念と基本方針について説明—

【委員長】基本理念について意見を求められたが、皆様いかがか。基本理念については市職員の違い・気持ちが大事だと思うが、事務局としてはいかがか。

【事務局】事務局としては(案1)「わたしたちの暮らしと安全をまもる 未来へつなぐ下水道」を第1候補として考えている。

【委員】案2の「見えない力でまちと暮らしを守る」という表現にも惹かれる。

【委員】下水道が緑の下の力持ちといったところが強調されて良いとも感じる。案1の方が今の基本理念を踏襲したような表現に感じるが、事務局としてはどう考えたのか。

【事務局】今の基本理念では「水環境」という表現になっており、範囲が広く感じてしまうため、下水道に絞られるような表現としたいと考えた。また、現在は浸水対策に力を入れているため、これまでの基本理念を踏襲しつつ、安全という言葉を入れている。

【委員長】基本理念については、「わたしたちの暮らしと安全をまもる 未来へつなぐ下水道」でよろしいか。

—異議なし—

【委員長】では新下水道総合計画基本方針は「わたしたちの暮らしと安全をまもる 未来へつなぐ下水道」を採用する。

【委員】基本理念 I 持続可能な下水道の管理・経営の主な施策として、下水道の「見える化」とあるが、一般的には「見える化」ではないのか。

【事務局】積極的に見せていくということで、あえて「見える化」という表現としている。

【委員】積極的に下水道について発信し、市民にみていただくという意味では「見える化」が良いと思う。

【委員】主な施策で「適切な財政マネジメントの導入」とあるが、漠然としている。もう少し具体的な表現が良いのではないか。

【事務局】検討する。

(4) 具体的な施策と取組み

【事務局】

—資料 1 のとおり、具体的な施策と取組み事例について説明—

【委員】適切な財政マネジメントの導入とあるが、具体的にはどういったことか。導入というとは今はやっていないような感じがする。

【委員】財政マネジメントとはよく使われる言葉だが、決まった定義がなく、中長期的に経営的な視点で財政マネジメントを実施していくという理解でよいか。他市では「財政マネジメントの向上」という表現などが使われていたと思う。

【事務局】そのように認識している。表現については検討したい。

【委員】実施例として新たな収入源の確保とあるが、例えばどういうものがあるのか。

【事務局】新しいポンプ場のネーミングライツ等が考えられる。

【委員】具体的な取組みとして、下水道使用料の見直し・改定のこと何カ所か出てくる。O J T のことも複数出てきている。同じ内容なので、集約した方がよいのではないか。

【事務局】重複している部分がないかなど確認し、内容を精査する。

【委員】施策2の具体的な取組みとして、民間企業との連携の拡大を挙げているが、コストがかかるのではないか。東京都都市づくり公社に委託しているのはなぜか。その他の委託は自前で行っているのか。

【事務局】浸水対策に関する大規模な案件については東京都都市づくり公社に委託をしている。最終的な判断は市で行う必要があるが、専門的な知識が要求されることもあり、設計から工事まで全体的に通してやっていただくような形である。

【委員】コンサルタント会社を挟むと工事は別の施工業者に発注することになり、その際に競争原理が働いて、コストが削減できると考えられる。

【事務局】公社に委託しなければならないというような決まりはないが、高度な知識を必要とする業務について委託している。一般的な工事については、公社ではなくコンサルタント会社で設計して、工事は工事会社に発注するというやり方をしている。

【委員】民間企業との連携として東京都都市づくり公社への業務委託だけに限定するような書き方はしないほうがよいのでは。「都市づくり公社をはじめとする」のような、委託先に幅を持たせた書き方のほうがよい。

【事務局】承知した。

【委員】人材育成について、暗黙知の形式知化とあるが、形式知化という言葉は固い印象を受けるため、マニュアル化や共有化といった表現はいかがか。

【事務局】表現については見直しを行う。

【委員】経営効率の向上とあるが、下水道課職員が9名ということで、どのくらいできるのか。

【事務局】毎年総務省に提出している決算のデータがあるが、維持管理という観点からこれまでの積み上げに加えて物価上昇などの外部的要因も考える必要があるので時間を要する。

どこまで、表現するかについては工夫したい。

【委員】資料の19ページに「外部講習会に年15回程度参加する」とある。重要なことだと思うが、何人ぐらいが行けるのか。

【事務局】外部講習会について現状でも1人1回は外部講習会に行けるだけの予算を確保している。

【委員】18ページには柔軟な職員配置や人材の育成として職員数の確保なども書かれている。これについては下水道課だけでは決められないものではないのか。

【事務局】決定するのは下水道課ではないが、下水道総合計画という市の計画でどれだけの職員が必要であるといったことを示したい。

【委員】資料1の23ページに下水道施設の維持管理、老朽化対策でストックマネジメントの記載がある。ストックマネジメント計画は令和7年度に見直しを行うことになっているが、同年度中に並行して策定する下水道総合計画の収支計画にどこまで反映させることができるのか。

【事務局】ストックマネジメント計画は5年間で地域を決めて順番に実施していく計画である。優先的に実施していくところはある程度決まってくるので、収支計画も反映されたものになると考えている。

【委員】収支計画は何年分作る予定か。

【事務局】短期・中期・長期という観点から全体で30年程度を考えている。

【委員】収支計画は物価水準等の設定によって金額が大きく変わるので、条件については委員会でも確認をしたい。

【事務局】今後の委員会で示したい。

【委員】示されている実施項目が多い。もう少し重点的に、メリハリをつけた方が良い気が

する。例えば、良いことではあると思うが、マンホールカードの配布は内容として少し下がる感じがする。メリハリをつけて、重点的なものを示した方が見やすくなるという気がする。

【委員】経営状況の見せる化とあるが、耐震状況や老朽化状況なども見えるようにしてもらいたい。財政指標だけでは下水道事業の全体像は見えない

【事務局】ご指摘のあったとおり、耐震・老朽化の状況も示していきたい。

【委員】雨水管路の整備状況について知りたい。

【事務局】現在は台風で浸水被害があったところに対する被害の軽減に向け、雨水管理総合計画に基づいた対応を行っている。多摩川からの逆流による浸水を防止するため、ポンプ施設の設置を優先的に進めている。雨水管渠の整備はその後ということになる。

(5) その他

【事務局】

— 一次回以降の委員会の開催日について説明し、日程を調整 —

— 第3回を8月21日（木）、第4回を10月16日（木）に実施することに決定 —